

## 1. 環境目標

### (1) 基準年度と基準値の設定

平成24年12月に瑞穂第二工場の本稼働により中間処分量が増加しましたので、今までの目標値設定方法では正確な環境負荷低減への取組みにはならない為、1 tあたりの中間処分量を分母とする原単位で再設定しました。

(平成23年度)	実績値		原単位	
廃棄物中間処分量	20,511	t/年		
廃棄物埋立処分量	7,684	t/年	37.46	%
燃料消費量	20,714,400	MJ/年	1,009.92	MJ/t
(CO <sub>2</sub> 発生量)	1,233,870	kg-CO <sub>2</sub> /年	60.16	kg-CO <sub>2</sub> /t
電気消費量	417,864	kWh	20.40	kWh/t
(CO <sub>2</sub> 発生量)	162,967	kg-CO <sub>2</sub> /年	7.95	kg-CO <sub>2</sub> /t
水消費量	1,221	m <sup>3</sup> /年	0.060	m <sup>3</sup> /t
(CO <sub>2</sub> 発生量)	439.56	kg-CO <sub>2</sub> /年	0.021	m <sup>3</sup> /t

### (2) 環境目標

1. 廃棄物埋立処分量はリサイクル率10%向上
2. 燃料消費量は、1%削減
3. 電気消費量は3%削減
4. 水消費量は3%削減

	単位	平成23年度 (基準年)	平成24年度 (実績)	平成25年度 (目標)
廃棄物埋立処分量	%	37.5	46.1	30.0
(前年度からの削減量)	t	-	8.6	-16.1
(前年度からの削減率)		-	122.9%	65.1%
燃料消費原単位	MJ/t	1,009.9	861.9	853.3
(CO <sub>2</sub> 発生原単位)	kg-CO <sub>2</sub> /t	60.2	51.7	51.2
(前年度からの削減量)		-	-8.4	-0.5
(前年度からの削減率)		-	-14.00%	-1.0%
電気消費原単位	kWh/t	20.4	16.8	16.3
(CO <sub>2</sub> 発生原単位)	kg-CO <sub>2</sub> /t	7.9	6.6	6.4
(前年度からの削減量)		-	-3.6	-0.2
(前年度からの削減率)		-	-44.988%	-3.1%
水消費原単位	m <sup>3</sup> /t	0.06	0.05	0.05
(CO <sub>2</sub> 発生原単位)	kg-CO <sub>2</sub> /t	0.021	0.017	0.016
(前年度からの削減量)		-	-0.005	-0.001
(前年度からの削減率)		-	-22.0%	-3.0%

※ 参考資料：排出係数について(全国地球温暖化防止活動推進センター)、温室効果ガス排出係数などについて(環境省)

## 2. 環境活動計画

### (1) リサイクル率維持向上・埋立処分量削減

- 廃棄物排出量実態把握
- コピー用紙使用量の実態把握
- 社内文書の裏紙使用・両面印刷の推進
- 分別によるミックスパーのリサイクル化
- 本社事務所、工場事務所ごみの分別・再資源化の推進
- 各処理行程からの廃棄物発生抑制

### (2) 燃料消費量削減によるCO<sub>2</sub>排出量削減

- エコドライブの推進
- GPS付デジタルタコメーターを装備しての運行管理
- 個人別運行記録の掲示
- 交通法規再認識の為にペーパーテストを実施（毎月）
- スピード超過、過積載の撲滅
- 代替時に燃費の良い車両を購入

### (3) 電気消費量削減によるCO<sub>2</sub>排出量削減

- 不要証明の消灯
- 効率の良い処理行程による設備稼働時間の短縮
- 未使用機器の待機電源停止
- 設備始動点検の徹底により故障を防止
- 設備の時間差稼働による負荷集中の回避
- 電力システムにデマンドを設置して使用過多の防止

### (4) 水使用量削減によるCO<sub>2</sub>排出量削減

- 設備洗浄方法の定期化
- 洗車機を設置、洗車方法の徹底
- 生活水での節水ゴムの導入
- 水使用量の把握
- 工場内ミスト噴射装置による冷却効果による節水



### 3. 環境目標の実績

平成24年度の実績値は、以下の通りです。

	単位	平成23年度 (基準年)	平成24年度 (実績)	評価
廃棄物埋立処分量	%	37.5	46.1	C
(前年度からの削減量)	t	—	8.6	
(前年度からの削減率)		—	122.9%	
燃料消費原単位	MJ/t	1,009.9	861.9	A
(CO <sub>2</sub> 発生原単位)	kg-CO <sub>2</sub> /t	60.2	51.7	
(前年度からの削減量)		—	-8.4	
(前年度からの削減率)		—	-14.00%	
電気消費原単位	kWh/t	20.4	16.8	A
(CO <sub>2</sub> 発生原単位)	kg-CO <sub>2</sub> /t	7.9	6.6	
(前年度からの削減量)		—	-3.6	
(前年度からの削減率)		—	-44.988%	
水消費原単位	m <sup>3</sup> /t	0.06	0.05	A
(CO <sub>2</sub> 発生原単位)	kg-CO <sub>2</sub> /t	0.021	0.017	
(前年度からの削減量)		—	-0.005	
(前年度からの削減率)		—	-22.0%	

※評価記号A：良好（100%以上） B：やや不足（90～100%） C：不適合（90%以下）

### 4. 環境活動計画の取組結果とその評価及び次年度の取組内容

#### (1) リサイクル率維持向上・埋立処分量削減

(取組結果)

- 瑞穂第二工場本稼働と共に周辺自治体の不燃ごみ持込不可等により、中間処分量が急増したが、弊社自動選別機能が期間が短すぎて十分発揮出来なかった。

(評価)

- 瑞穂第二工場に装備された「自動選別システム」が完全機能することにより、月産700tの燃料化を達成しており、通年フル稼働することにより、更なる成果が得られると評価出来ます。

(次年度の取組内容)

- 両工場の「自動選別システム」の改善・強化により、埋立廃棄物の削減を継続していき、新たなリサイクル率向上策及び廃棄物抑制対策を検討し継続していく。

#### (2) 燃料消費量削減によるCO<sub>2</sub>排出量削減

(取組結果)

- 環境教育により免許所有者全員に周知徹底、エコドライブ教育を実施し、春と秋の年2回、福生警察署協力の下、安全運転講習会の実施により、法令遵守啓発を図った。
- 収集運搬車全車にGPS付デジタルタコメーターを装備し、各ドライバーの運行を管理した。スピード超過等悪質なドライバーには、運行内容を社内に掲示し再発を防止した。

(評価)

- 中間処分量が急増したにもかかわらず、燃費消費量は削減出来た。引き続き個別運行管理により、効率的な回収ルート of 更新、新規顧客の獲得による作業効率の向上が達成出来た。

(次年度の取組内容)

- 引き続きエコドライブ教育、安全運転講習会、個別運行管理により、実質的な燃料消費量の削減を継続していき、新車購入時には、低燃費車を率先して導入していく。

### (3) 電気消費量削減によるCO2排出量削減

#### (取組結果)

- ・ 環境教育により全従業員に周知徹底し、休憩時や不在時に各設備や照明についてマニュアル化、節電対策を実施した。
- ・ 両工場の電力管理システムにデマンドを設置し、設備同時稼働による使用過多を未然に防ぐことにより、設備時間差稼働が可能となった。
- ・ 中間処分量増加に伴い、工場従業員のシフトを変更して、残業時間を短縮した結果、電気消費量の削減することが出来た。

#### (評価)

- ・ 瑞穂第二工場に装備された「自動選別システム」が完全機能することにより、月産 700 t の燃料化を達成しており、通年フル稼働することにより、更なる成果が得られると評価出来ます。

#### (次年度の取組内容)

- ・ 両工場の「自動選別システム」の改善・強化により、埋立廃棄物の削減を継続していき、新たなリサイクル率向上策及び廃棄物抑制対策を検討し継続していく

### (4) 水使用量削減によるCO2排出量削減

#### (取組結果)

- ・ 環境教育により全従業員に設備洗浄方法をマニュアル化して定期的に行うことを周知徹底した。
- ・ 自動洗車機を設置して、洗車時の水の開放しが無くなり節水出来るようになった。
- ・ 工場内にミスト噴射装置を設置する事により、防塵、冷却の為の無駄な放水が無くなり節水出来るようになった。

#### (評価)

- ・ 使用水量について数値化して目標設定をした為、節水について定量的な評価が出来るようになった。
- ・ 中間処分量が増加したにもかかわらず、ミスト噴射装置や自動洗車機の設置により、使用量削減する事が出来た。

#### (次年度の取組内容)

- ・ 設備の運転調整や機械的な削減方法を検討し、効果的な水使用量の削減を検討する。